

「循環型社会形成研究会」講演会のご案内

21世紀は「環境の世紀」と言われますが、北海道開発政策においても、地球温暖化が顕在化してきている中で、経済、生活の持続的な発展と二酸化炭素削減を達成する低炭素社会の実現に向けた取り組みが急務になってきています。化石燃料エネルギーを中心とした多消費型の経済社会システムから地球環境に付加を与えない脱炭素への転換を図る、資源循環型の経済社会システムの構築を図りながら、自然と共生する持続的な地域社会の形成を図っていく知恵が求められています。

こうした問題意識のもと、釧路公立大学地域経済研究センターと(財)北海道開発協会では、循環型社会形成の経済的な意義について考えていくとともに、低炭素社会に向けて経済発展と両立させながら着実に取り組みを進めている先行事例などについての調査研究を共同研究として取り組んでいます。専門家などを招いてお話をおうがたいする研究会では、関心のある方々も参加できる形で展開していくこととなっております。

そこで、今回は環境先進国ドイツの中でも、とりわけ先進的な都市・フライブルクのまちづくりについて、同市在住の環境ジャーナリスト村上敦さんをお招きして、ご講演をいただくことになりました。皆様の参加をお待ちしております。

循環型社会形成研究会代表 小磯修二(釧路公立大学学長・地域経済研究センター長)

テーマ:「ドイツ・フライブルク市のまちづくり

～環境配慮型住宅地開発の事例から～

講演者:村上敦氏(フライブルク市在住・環境ジャーナリスト)



ドイツ・フライブルク市にある「ヴァーバン」住宅地は、環境に配慮したさまざまな工夫がなされているほか、「拡大住民参加」「学びながら進化する都市計画」「自転車と徒歩交通を推進するカーフリー構想」など、各分野において持続可能な社会を構築するために新しい取り組みが行われた新興住宅地です。

フライブルク市の都市計画やヴァーバン住宅地のコンセプトについてご紹介いただくほか、緑化の推進や雨水の効果的な処理、住宅地内の交通規制、省エネ住宅の推進など、環境に配慮したさまざまな工夫について、具体的にお話をいただき、環境配慮型住宅地の必要性、わが国における実現性や課題などについて考えていきます。

<講師プロフィール>

土木工学を学び、ゼネコンで人工埋立地の業務を担当した経験から環境破壊の惨状に疑問を感じ、その後ドイツ・フライブルク大学に留学。在籍中からドイツの環境政治・行政を独学。フライブルク地方市役所・建設局での勤務経験も。現在は通訳・翻訳、環境視察のコーディネートのほか、環境ジャーナリストとして執筆活動を行っている。著書に『カーシェアリングが地球を救う』『フライブルクのまちづくり ソーシャル・エコロジー住宅地ヴァーバン』など。

と き:2008年11月6日(木) 15:00～17:00

ところ:(財)北海道開発協会 6階ホール

(札幌市北区北 11 条西2丁目 セントラル札幌北ビル)

TEL(011)709-5213(開発調査総合研究所)

※参加申し込みは裏面の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

「循環型社会形成研究会」

11月6日(木)開催講演会参加申込書

所属・役職	氏名	TEL	FAX

必要事項をご記入の上、

FAX(011)631-0540(プランニング・メッシュ 担当:関口)か、

FAX(011)709-5229((財)北海道開発協会 担当:佐藤) までお申し込みください。

※この件についてのお問い合わせは、TEL(011)631-0540(プランニング・メッシュ 担当 関口まで)

※参加申し込みは、11月4日(火)で、締め切らせていただきます。